

---

北陸地域国際物流戦略チーム 令和7年度 幹事会

---

日 時：令和7年3月2日(月)15:30～17:00

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 302 会議室

方 式：対面・オンライン会議 (Microsoft Teams) 併用形式

出席者：別紙、名簿のとおり 52 名(会場 16 名、WEB36 名)

---

－ 議事概要 －

1. 開 会

2. 議 事

議事 (1)：次期総合物流施策大綱に関する検討状況について

※意見・質問なし

議事 (2)：令和7年度の取組について

①広域バックアップ専門部会の取組について

【事務局】

- ・ワーキンググループについては、今までよりも少人数で議論を深めていきたいと考えている。

②国内外の物流を取り巻く情勢変化

○北陸地域における東南アジア航路の可能性の検討

【委員】

- ・検討では北陸港湾に新たに開設する東南アジア航路に就航する船舶の規模として 1,000TEU 積みを想定しているが、1,000TEU 積みの船舶で採算が取れる見込みがあるのか。

【事務局】

- ・現状の貨物を増やすだけでなく、高い運賃の貨物を取り込むことができれば 1,000TEU 積みの船舶で東南アジア航路は成り立つと考えている。

【委員】

- ・東南アジア航路の開設は、熱心に取り組む課題と認識している。これまでは採算が合わないなどの理由で検討段階にはないという状況が続いていたが、航路の再編の動きもあり潮目が変わりつつあることから、北陸港湾からの直行便の開設に取り組みたい。

【委員】

- ・実際に航路を開設する場合、現状の航路体系から考えると北部九州や東北地方との連携も検討するべきである。

○日本海側内航フェリー・RORO 航路拡充に向けて

※意見・質問なし

○日本海側内航航路の動向について

※意見・質問なし

### 議事(3): 令和8年度取組(案)について

#### 【委員】

- ・ 東南アジア航路開設に係る関係者による情報共有の「関係者」は誰を想定しているのか。
- ・ 今回推定したマクロな代替輸送需要量と、代替輸送訓練参加者の企業ベースで見た場合の代替輸送需要量や輸送需要が上がる状況などを突き合わせる事ができたら良いだろう。

#### 【事務局】

- ・ 情報共有の「関係者」については、行政のほか民間事業者にも協力していただくことを考えており、今後相談しながら進めていく。
- ・ 広域バックアップ体制の強化については、今回の代替輸送需要量の検討結果を、代替輸送訓練に参加する方々に示し、訓練への参加や北陸港湾を利用したトライアル輸送等につなげていければと考えている。

### 3. 全体意見交換・質疑

#### 【委員】

- ・ 内航 RORO 船の博多航路の貨物量が伸びている背景を教えてください。

#### 【事務局】

- ・ モーダルシフトが進んだことが背景にあることが企業へのヒアリングよりわかっている。

#### 【委員】

- ・ 九州は道路整備が進んでおりトラック輸送が多かったが、物流 2024 年問題の影響により、内航海運にシフトしたと、複数の企業から聞いている。

#### 【近海郵船株式会社】

- ・ 物流 2024 年問題を契機に、今後輸送力が不足するだろうと考える企業が先行して RORO 航路にシフトし使ってもらっているという状況がある。

#### 【委員】

- ・ 企業 BCP に関しては、現状の準備レベルは様々である。訓練参加の有無やトライアル実施の有無など企業の状況別にグレードを分けて、各グレードに対応した取組が必要であると考えている。

### 4. 閉会

以上